

会長の時間 第 20 回 異文化理解

日出ロータリークラブ

会長 加賀山 茂

はじめに

これまでの会長の時間で、私は、ロータリークラブの基本的な理念について、「四つのテスト」の意味 (第 1 回)、「ロータリーの目的」の意味 (第 2 回)、「五大奉仕部門」(第 3 回)、「公平とは何か」について、タクシーの相乗りの場合の料金の公平な負担について検討させていただき (第 5 回)、「微笑みを微笑みで返す」とか「いただいたら、お返しする」とかという共感脳の抱える「やられたら、やり返す」というジレンマ (第 6 回)、偽りの親睦と四つのテストの関係 (第 7 回)、新型コロナウイルス感染症対策 (第 8 回)、善行とは何か (第 9 回)、善行褒章とその基準 (第 10 回)、善行褒章基準の日独比較 (第 11 回)、子ども食堂 (第 12 回)、地方創生 (第 13 回)、コロナ禍における国民の三大義務の支援 (第 14 回)、機会の三つの扉の応用 (第 15 回)、前期の反省と後期の抱負 (第 16 回)、今年度後期の抱負と提案 (第 17 回) では、Web 例会の可能性について話し、前回には、日出ロータリークラブが、近隣のクラブに先駆けて対面とリモートを併用したハイブリッド例会を実現した意義、SDGs と日出ロータリークラブとの関係 (第 19 回) について、そして、オンライン会議を介したのを契機に、Zoom の使い方 (第 20 回) について話しました。



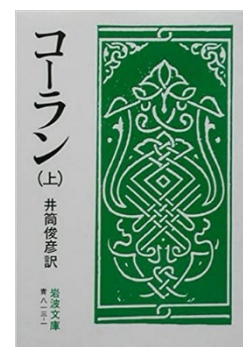
そして、いずれの回においても、本年度の RI 会長 (Holger Knaack 氏) のテーマである「ロータリーは機会の扉を開く」を活用させていただき、3つの扉の色に即して、**赤い扉**は、「親睦 (和らぎ睦び)」として、**黄色の扉**は、「職業倫理の向上」として、**青の扉**は、「次世代への奉仕活動の実践」として整理させていただきました。

今回は、吉止啓貴・大分合同新聞日出支局長の外来卓話が「日出町の性格、ムスリム土葬墓地について」ということですので、イスラム文化について、話したいと思います。

1. イスラム教の教義

(1) コーランを読み始めた時の印象

最近、世界に通用する『子どものための法教育』という本を執筆する上で、必要に迫られてイスラム教の経典である『コーラン』を読みましたのですが、読み始めてすぐに『コーラン』とは、神が預言者であり使徒であるムハンマド（マホメット）に直接語りかける、すなわち、翻訳者によれば、「直接神自身がマホメットにのりうつって、その口を借りて話しかけてくるその言葉をその時その場で記憶にとどめたものである」ということがわかりました。



そして、コーランに記録された神の言葉は、「マホメットの口から流れ出るにしても、彼自身が一人称で語るということはいつの場合にも絶対がない。マホメットは、第二人称であり、話しかけられる相手である。」という点に「聖書」とは異なる最大の特徴があることもわかりました。

また、神は、マホメットに対してだけでなく、「時には神の言葉はマホメットを素通りして、直接信者たちに『お前たち』と呼びかけたり、なだめたり、すかしたり、喜ばしたり、脅したり、仲々面白い掛引きの妙を見せる」ことがあります。

(2) コーランを読み終わった時の感想

コーラン（114章）を最後まで読んでみて、キリスト教の聖書との対比でコーランの特色は、以下のようにまとめることができます。

第1に、コーランは、聖書のような使徒による神にまつわる物語ではなく、唯一神であるアッラーが最後の使徒であるムハンマドに教えを伝えるという形式を取っています。

第2に、コーランの内容は、旧約聖書をそのまま確認するところから始まりますが、神は、ヤハウエ（エホバ）と同一のアッラーのみであり、すべての人は主であるアッラーに絶対的な服従を誓う奴隷とみなされています。

第3に、モーゼやイエスも優れているとはいえ、使徒の一人に過ぎず、その点では、ムハンマドと同格です。

第4に、コーランは、厳格な一神教という立場から、神の子という概念を否定しています。キリスト教は、イエスを神の子としているため、この点が、イスラム教とキリスト教とを区別する決定的な違いです。



2. 埋葬文化の背景

(1) 現世と来世

イスラム教においては、「現生」というのは、一瞬の夢のような出来事に過ぎません。これに比べて「来世」は永遠であり、そこでの生活(天上での生活)こそが、最も重視されるのです。

来世での運命は、最後の審判の日(復活の日)に、死者を含めてすべての人がアッラーの下に集められ、現世の行為の正確な記録(天上の帳簿)に基づく公正な審判によって決定されます(第 2 章第 26 節)。つまり、天国に行くか、地獄に行くかは、現生での行為に対する最後の審判によって決定されるのです(第 39 章第 68-70 節)。

その意味でのみ、現生での行為が尊重されます。なぜなら、個人のすべての行為は、天上の帳簿に記録され(神に対しては、隠し事は一切できません)、それに基づいて、天国に行けるか、地獄に落ちるかが決定されるからです。

(2) 復活

最後の審判の日、すべての人は、墓に眠っていた人も含めて、天使に呼び出され(復活)、アッラーの前で、天国に行くか、地獄に行くかの審判を受けることになります。

すべての人が生前に何をしたかは、先に述べたように、天上の帳簿に書き込まれています(第 34 章第 3 節)。その帳簿に基づいて公正な裁きが行われるのですが(第 39 章第 69 節)、そればかりでなく、引き出された人々の耳や目や肌までが、彼らの現世でして来た事を証言し出すのです(第 41 章第 19 節)。本人が、いくら悪事を一生懸命ごまかそうとしても、まさか自分の耳や目や肌に証言されては、どうにもなりません(同章第 21 節)。

以上ことを踏まえるならば、イスラム教徒にとって、最も重要な最後の審判を公正に受けるためには、死後も墓に埋葬されていることが不可欠であることが理解できるのではないのでしょうか。

確かに、土葬は、衛生上の問題があるといわれていますが、そもそも土は、時間をかけて動植物の死体を肥料に変えて、農業生産を支えてきたのであり、死体を土に返す際に慎重な配慮をすれば、土壌汚染は起こりません。むしろ、火葬は、長い時間をかけることなく、即時的に死体を処理するため、火葬の方が大気汚染を生じさせています。火葬場の建設に反対運動が生じている現実には理由があります。

このように考えると、コロナ禍を助長する「三密」状態を受け入れている都市においては、土葬が条例等によって禁止されてもやむをえませんが、「三密」を避けている田園地帯においては、一方で大気汚染を生じさせている火葬を許容し、他方で土壌汚染を生じさせない土葬を禁止する理由はないと、私は考えています。

天国に行くためには、死体が必要だと考えている人たちの宗教的な願望、信教の自由(憲法 20 条)は、一定の条件の下ではありますが、認められるべきではないのでしょうか。

3. イスラム教徒との付き合い方



◆イスラム教徒とのかかわりに関する手ごろな本を紹介しします（飯山陽『イスラム 2.0: SNS が変えた 1400 年の宗教観』河出書房新社 (2019/11/23)参照）。

一般の日本人がイスラム教徒と関わる際に最も重要なのは、極力衝突や争い、面倒、不快といったトラブルを避け、できるだけ平和裡に共存する、ビジネスを成功させる、といった実利をとることだと上記の本の著者（飯山 陽）は考えています。それを目標と設定した場合には、次の四つの原則を厳守することが重要だと筆者は述べています。

- ①普遍真理（イスラム教の価値・論理）を争わない。自分から無宗教とは言わない。
- ②日本の憲法，法律等の国内法の順守を遠慮せずに徹底する。
- ③日本の常識（郷に入っては郷に従えを含む）を押し付けない。
- ④デッドラインを超えない。
 - ・イスラム教で禁じられたことを行わない。
 - ・結婚前提以外ではイスラム教徒の異性との交際はしない。
 - ・と婚約関係にないイスラム教徒の異性をデートに誘わない。
 - ・イスラム教徒の異性とはたとえ仕事でも、物理的に二人きりにならない
 - ・イスラム教徒の異性には握手を含めボディタッチをしない。
 - ・イスラム教徒の異性を凝視しない。
 - ・イスラム教徒女性にバイクや自転車に乗ることを勧めない
 - ・イスラム教徒の前で婚姻関係のない異性といちゃつかない。
 - ・安易にモスクに入らない。安易に「～のメッカ」という表現を使わない。
 - ・モスクやイスラム教徒の多い場所に犬を連れて行かない。
 - ・イスラム教徒の同性同士のキスや手つなぎを同性愛と勘違いしない。

4. 参考文献

- ・飯山陽『イスラム教の論理』新潮新書(2018/2/15)
- ・飯山陽『イスラム 2.0: SNS が変えた 1400 年の宗教観』河出書房新社(2019/11/23)
- ・井筒俊彦(訳)『コーラン』〈上・改版〉岩波文庫 (2003/02/05)
- ・井筒俊彦 (訳)『コーラン』〔中〕岩波文庫 (1964/1/1)
- ・井筒俊彦 (訳)『コーラン』〔下〕岩波文庫 (2004/4/16)
- ・井筒俊彦『イスラーム文化-その根柢にあるもの』(岩波文庫 (1991/6/17)
- ・牧野信也『イスラームの原点<コーラン>と<ハディース>』中央公論社 (1996/11/30)